

## 第9回病診連携委員会要録

日 時 平成22年2月22日（月） 午後7時30分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 7名  
愛染橋病院 : 2名  
大野記念病院 : 2名  
四天王寺病院 : 1名  
多根総合病院 : 2名  
富永病院 : 2名  
浪速生野病院 : 1名  
かんでんジョイライフ 2名

### 議 題

1. 第8回病診連携委員会報告について  
前回委員会での議事内容の報告と確認が行われた。

2. 病診連携委員会のアンケート結果について  
アンケート結果は次のとおり。

#### 【質問1-1】

大前提として、定期通院患者であり、患者およびそのご家族と良好なコミュニケーションが主治医との間にきづかれていることの必要性が確認された。

個別の適応要件としては、以下の提案があった。

- ・ 過去に救急受診歴がある患者
- ・ 急変の可能性が高い患者
- ・ 癌末期患者
- ・ 介護サービスを受けている患者
- ・ ADLに制限のある患者
- ・ 喘息発作など緊急治療が必要となる患者
- ・ 入退院を繰り返すハイリスクな患者
- ・ ナービスなどを利用して登録患者情報を公開し、マッチングできた患者
- ・ 希望されるすべての患者
- ・ 主治医が必要と考える患者

#### 【質問1-2】

- A. 3月中 : 6件      B. 4月以降 : 5件      C. 5月以降 : 2件  
D. それ以降    1件

大半の委員がA、Bを選択し、早期に開始することを受け入れているので適応拡大の実現に向けての話し合いをどんどん進めていきたい。

#### 【質問2】

- A. 三者（病院、診療所、介護事業所）の合同カンファレンス : 5件  
B. 合同カンファレンスの開催ができない場合は、連絡カードで連携 : 3件  
C. 介護事業所に連携を委ねる : 3件  
D. その他 : 2件

回答がバラバラにわかれたので、今後は連携の方法から協議の必要がある。

### 【質問3】

さまざまな意見があったが、すべて前向きな意見なのでこの方向で話を進めていきたい。

また、介護情報などの項目を具体的にどうするかは次回以降の議題とするブルーカードのようなネットワークを試みている地域が3か所あり、次回の委員会で一番進んでいる所沢市医師会の在宅医療ネットワークシステムを紹介する予定。

また、過日、浪速区医師会に所属する開業医65名に対して、ブルーカード適応拡大についてのアンケート調査を行った。現時点での回答数が、まだ20名前後で過半数に満たないため、来月にアンケート結果を整理し説明することとする。

### 3. ブルーカードの適応拡大について

施設ごとの意見は以下のとおり。

#### ▷ 大野記念病院

介護を必要とする患者と、介助（癌患者の支援などの何らかの援助）を必要とする患者を対象としたい。喘息は重積発作なら対応は困難であり、これまでも呼吸器専門医のいる施設での治療を勧めることが多い。

#### ▷ 愛染橋病院

イエローカードの適応症例を対象としたい。内科疾患以外は受け入れ困難であり、3次救急の対応はできないので、連絡後の電話の内容によりケースバイケースで判断する。

#### ▷ 浪速生野病院

内科、整形外科疾患なら何でも対応したいが、非常勤の当直医も多いので医師ごとに適応が変わることが考えられる。連絡後の電話の内容によりケースバイケースで判断することになる。

#### ▷ 富永病院

病病連携になるが、脳外科、循環器疾患は何でも受け入れてよい。

#### ▷ 多根総合病院

病病連携により、一次病院からの連絡があれば、何でも相談に乗ってもよいと考えている。喘息は、一次病院が対応できない重度のものは困難と思われる。

#### ▷ 四天王寺病院

病病連携により、一次病院からの相談に応じる。事前に患者情報があれば受け入れ可能か判断しやすい。

#### ▷ 診療所側

・ブルーカードの主旨と一般の救急システムではないことを患者とその家族に十分に説明し、これらが理解できた人を適応とすることが大切である。

・一見ではなく、主治医とのコミュニケーションがとれている患者を適応とする必要がある。

・病院側が患者情報を見て、事前に受け入れ可能かを判断してもらえるとありがたい。

・介護事業者の間にはまだブルーカードが十分に認知されていないので、

情報発信が必要である。

- ・まずは介護を受けている通院患者から始めてはどうか。
- ・急変の可能性のある定期通院患者はすべて対象として欲しい。
- ・喘息も重積発作でない限りは対応してほしい。

協議の結果、すべての施設がブルーカードの適応拡大に異論はないので、適応基準をはっきりさせてから開始することに決定。

#### 4. ナービス24について

かんでんジョイライフの秋山氏にナービス24の実例（ナービスDBの情報）を実際にネットにつないでプレゼンテーションしてもらった。

ナービスDBは、過去の病歴、アレルギー、血液型など詳細なデータの入力が可能であり、看護師のコミュニケーションツールとしても使用されているとのことである。しかし、ナービスDBを利用するには必要データの吟味、介護意見書を利用できる工夫などが必要である。連携の必要性から介護事業者の閲覧を可能にすることも検討してもよい。

将来的には、アクセス権を規定した上で、必要なデータを閲覧するだけでなく、データをダウンロードできるようにする必要がある。現時点では、デジタル化していない施設が多いので、当面は医師会にデータを集めて情報発信することとなる。

#### 5. その他

徳田先生より4月の糖尿病医会でブルーカードのことを話題に使いたいとの申し出があった。

協議の結果、異論なく了承。

次回会議予定 平成22年3月29日（月）午後7時30分～